

＜過去1週間の動き＞

(1月27日～2月2日)

USD/ZAR: 15.2075～15.7025

ZAR/JPY: 7.35～7.57 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、滑り出しは上昇、程なく反落、週明け以降反転上昇、2日になって頭打ちから軟調と細かい出入りを繰り返して、振り返って、結局、概ね横ばいに終わった。26日の米連銀公開市場委員会(後のパウエル議長発言)が「予想以上に鷹派的だった」との受け止め方がされ、ドルが全面高に振れる中、27日のランド上昇はその流れに逆行する形で始まった。この局面のランド高は、同日の南ア準備銀金融政策委員会を前に、「南ア準備銀も積極的な利上げ姿勢を示すのでは？」との思惑が演出した模様。しかし、利上げ幅は市場予想通りの+25b.p.にとどまった上、全会一致の可能性も展望された票読みは4対1(据え置き票)で、+50b.p.利上げは議論すらされなかった。更に、同委員会が参考にする四半期予想モデル(QPM)は、22年末の政策金利予想を、従来(昨年11月)の5.17%から4.91%に切り下げ。QPMはあくまでも参照に過ぎず、実際の政策金利パスを占うにはあくまでも補助的な材料との位置づけだが、それでも、予想水準が引き下げられた事実は重く受け止められた。31日以降のランド反発は、同日発表された南ア12月貿易収支の堅調(大幅黒字の高止まり)が好感されたものと考えられた。そういう目線で見れば、週末前(28日)に発表されていた南ア12月財政収支も、予想を上回る歳入増に支えられた堅調な数字と言うことができただろう。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
1/27	13:11	南ア準備銀政策金利		4.00%	4.00%	3.75%
1/28	12:00	財政収支(ZAR)	12月	+41.9bn	+42.5bn	-21.8bn
1/31	6:00	民間部門信用(前年比)	12月	+2.58%	+2.55%	+2.46%
	12:00	貿易収支(ZAR)	12月	+30.1bn	+31.0bn	+35.8bn
2/1	12:25	自動車販売統計(前年比)	1月	+19.5%		-3.5%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(2月3日～2月9日)

USD/ZAR: 15.100～15.500

ZAR/JPY: 7.35～7.55

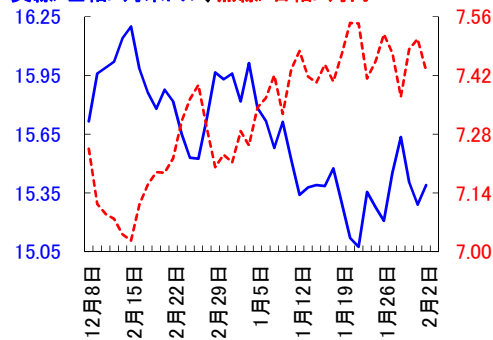
向こう1週間の南ア・ランド相場は、方向感の交錯した横ばいを予想。従来から、金利先渡市場(FRA)など短期金利市場の織り込む南ア準備銀利上げ予想(注1)には行き過ぎの感が強かった。今般、同銀が「利上げは緩やかに進める」姿勢を明確にしたことは、ランドにとっては中期的に重石となる材料と言えるはず。一方で、南ア国債利回りが低下(価格は上昇)していることはランド押し上げ要因になるはず。仮に、10年国債利回りが、9.70%を割り込むことになれば、テクニカルには9.40%水準が射程に入るはずで、そうなればランドには一段と追い風となるであろう。南ア交易条件の改善(注2)が一服して久しいものの、引き続き、同国の貿易/経常/財政収支が予想外に健全な水準を維持していることは、文句なしにランド押し上げ要因。ドル建JSE全株指数が5000ドルをうかがう水準にあることも、南ア資産市場に強気になれる要因と言えよう。一方で、南ア政治に目立った改善/進展が見られない事実は、金融資産市場の失望を買う要因と言えるのではないかと。目先、ラマポーザ大統領の一般教書演説(2月10日)、ゴドングワナ財務相の予算発表(2月23日)など注目材料が並ぶものの、内外に、南ア政治が「改善」したと印象付ける機会になる可能性は見込み難い。南ア政治の「改善」を印象付けるには、なによりもまず、ズマ前大統領に体现される与党アフリカ民族会議(ANC)の「汚職まみれ」の過去との決別が必要と思われるが、足元は、逆にシスル観光相のようなズマ派残党の流れを汲む革新的経済移行(RET)派閥の増長が目玉を引く。電力不足と計画停電の頻発は相変わらずだし、改革の「目玉」となるべく、南ア電力公社(Eskom)分割や、周波数帯入れ、電力自由化などの進捗は覚束ない。こうした改革が一朝一夕に進まないのはやむを得ないことだが、ラマポーザが大統領に就任してから既に4年、その歩みの遅さには失望を抱かずにはいられない。

＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
2/7	6:00	総外貨準備高(USD)	1月			57.59bn
2/9	9:30	企業景況感指数	1月			92.8

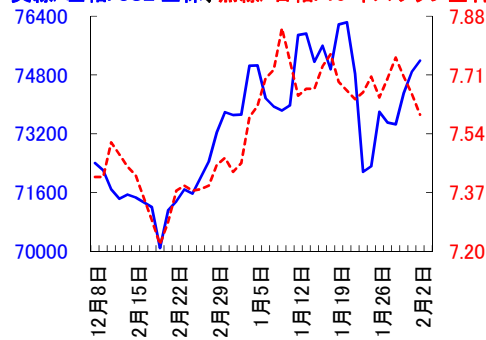
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		4.00%
長期金利(10年スワップ)	2月2日	7.595%
株価指数(JSE全株)	2月2日	75190.74
成長率(GDP/前年比)	Q3	+2.9%
経常収支(ZAR)	Q3	+226bn
失業率	Q3	34.9%
消費者物価(前年比)	12月	+5.9%
小売売上高(前年比)	11月	+3.3%
製造業生産(前年比)	11月	-0.7%
鉱業生産(前年比)	11月	+5.2%
貿易収支(ZAR)	12月	+30.1bn
金価格(ロンドン 17:00)	2月2日	1809.04

(注1) 向こう12ヵ月で+225b.p.超など

(注2) ランド安+南ア主要輸出産品(プラチナなど)の(ドル建)価格上昇

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。